

科 目 名	生活技術学【作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	藤 原 和 彦・植 田 友 貴						
開 講 年 次	3	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修（作業）
授業の概要 及びねらい	日常生活活動（Activities of daily living :ADL）は、個人が毎日の生活を送る上で必要な動作（活動）の一式と定義されている。本講義ではこれらの ADL の基礎となる知識を習得し、評価や支援が行えることを目的に、講義・演習を中心とした授業を行う。さらに、脳血管障害（片麻痺）者等、障害を持つ人の「基本的 ADL」、「生活関連動作」、「ADL と福祉用具」、「ADL と QOL」について学習する。						
授 業 の 到 達 目 標	1. ADL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的な ADL 評価方法を説明できる。 3. ADL 支援機器の基本的機能を説明し、使用することができる。 4. 基本動作を理解し、動作分析および対象者に対する支援方法を実践する。 5. 移乗・移動動作を理解し、動作分析および対象者に対する支援方法を実践する。 6. 食事・更衣・排泄等の動作を理解し、動作分析および対象者に対する支援方法を実践する。 7. 簡単な自助具・スプリントが作成できる。						
学 習 方 法	講義および演習を交えながら実施する。						
テキスト及 び参考書等	①斎藤宏ら：姿勢と動作－ADL その基礎から応用－，メヂカルフレンド社 ②田川義勝ら編：標準作業療法学 社会生活行為学，医学書院③酒井ひとみ編：作業療法技術学 3，日常生活活動，協同医書出版						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎			◎		50	
小テスト等	◎	○					
宿題・授業外レポート	◎	◎				20	
授業態度				◎	○		
受講者の発表	○	○					
授業への参加度	○						
その他						30	
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
前 期	第 1 週	オリエンテーション（ADL の概念と範囲）					
	第 2 週	ADL 表の目的と意義					
	第 3 週	ADL 評価について（FIM・BI など）①					
	第 4 週	ADL 評価について（FIM・BI など）②					
	第 5 週	ADL 評価について（FIM・BI など）③					
	第 6 週	ADL 支援機器（車いす①）					
	第 7 週	ADL 支援機器（車いす②）					
	第 8 週	ADL 支援機器（福祉用具・自助具）					
	第 9 週	姿勢と動作の概念について					
	第10週	基本姿勢					
	第11週	寝返り動作					
	第12週	起き上がり動作					
	第13週	椅子からの立ち上がり					
	第14週	移乗①					
	第15週	移乗②					
	第16週	まとめ（筆記試験）					
後 期	第 1 週	オリエンテーション（基本動作の復習）					
	第 2 週	移乗動作の復習①					
	第 3 週	移乗動作の復習②					
	第 4 週	ADL 評価の視点とポイント①					
	第 5 週	ADL 評価の視点とポイント②					
	第 6 週	食事動作①					
	第 7 週	食事動作②					
	第 8 週	更衣動作・入浴動作・排泄動作①					
	第 9 週	更衣動作・入浴動作・排泄動作②					
	第10週	更衣動作・入浴動作・排泄動作③					
	第11週	更衣動作・入浴動作・排泄動作④					
	第12週	自助具作成①					
	第13週	自助具作成②					
	第14週	スプリント作成①					
	第15週	スプリント作成②					
	第16週	まとめ（筆記試験）					
備 考							